

戰爭拋棄之關スル條約案御批准ノ件第一回審
査委員會

昭和四年六月十七日(月曜日)本院事務所
於テ開會

出席者

倉富 議長

平沼 副議長

審査委員長

伊東 顧問官

憲
法
院

和
密
院

審査委員

金子顧問官

富井顧問官

石黒顧問官

江木顧問官

田顧問官

荒井顧問官

齋藤顧問官

石井顧問官

國務大臣

田中

内閣總理大臣兼外務大臣

説明員

前田法制局長官

金森法制局参事官

吉田外務次官

松永外務省條約局長

堀田外務省歐米局長

二上書記官長

臨時院

木部院

樞密院

堀江書記官

武藤書記官

(午後一時三十分開會)

伊東委員長開會ヲ宣ス

田中内閣總理大臣兼外務大臣ヨリ本案條約成立ノ經過殊々自衛權ノ範圍、一般平和保障條約トノ關係、條約中ノ文句、其ノ各自ノ人民ノ名ニ於テ、ノ意義ニ關シテ米國政府ト交渉シタル顛末等ニ付詳述ス

石井顧問官ヨリ條約原文ニ戰爭ニ訴フルヲ

Condemn ストアリテ戰爭ヲ罪惡視セムトスル

カ如シ果シテ然ラハ從來認メラレタル交戦權ハ

消滅スルモノナリヤトテ政府ノ見解ヲ質シ松永

條約局長之ニ答フ更ニ同顧問官ヨリ本條約ト

不可離ノ關係アル仲裁條約ノ締結ニ關スル質

問アリ松永條約局長之ニ答フ

石黒顧問官ヨリ只今總理大臣ノ説明中ニ本院有

力者ノ意見ニ依リ云々トノ語アリシカ本案ノ御諮

詢以前ニサルコトアリシヤ詳細ニ承リタシトノ質問

樞密院

アリ之ニ對シテ田中總理大臣ハ御意見ノ發表アリ
リトイフニ非サルモ斯ク察知シタルモノナル旨
ヲ答ヘタルヲ以テ同顧問官ハ察知ニスギストセハ
已ム若シ聞シトイフナラハ誰レカ何ト云ヒシヤ
此席ニ於テ明瞭ニ述ヘラレタシト詰問ス總理大
臣ハ察知シタリトノ意味ニ了解セラレタキ旨ヲ
答辯ス

富井顧問官ヨリ自衛権ニ關スル英國ノ留保回
答ノ例ヲ擧ケテ我國カ無留保ノ回答ヲ為シタル
コトノ手落ニアラサルヤヲ質シ堀田歐米局長

之ニ答フ之ニ對シ同顧問官ハ更ニ自衛権ニ關シ言
明スルヲ以テ萬全ノ道ナルヘキ旨ヲ説述ス

石黒顧問官ヨリ道義國タル日本ガ最後ニ批准ス
ル理由、第一條ノ字句ニ付テハ修正ノ機會アリシ
モ之ヲ為サス今日ニ到リテ之ニ留保ヲ附スル事由、
本案宣言書送付ノ時期、手續及之ニ對シ關
係國ニ於テ異議アル場合ノ處置等ニ關シ質問
アリ前田長官及堀田局長夫々之ニ答フ

次ニ宣言書發表ノ手續ニ關シ石井顧問官ト堀
田局長トノ間ニ二三ノ問答アリ又宣言文案中

日本國ニ限りナル語ノ適否ニ付 伊東委員長
ト堀田局長及前田長官トノ間ニ問答アリ次ニ
金子顧問官ヨリ宣言發表ノ手續ニ付質問ア
リ堀田局長之ニ答ヘタルモ其ノ先例ヲ示サムコト
ヲ求メラレ 松永局長ヨリ御批准書ト一所ニ官
報ニ掲載シタル最近ノ事例ヲ引テ答辯ス尚同
事項ニ付江木顧問官ト伊東顧問官トノ間ニ
二三ノ問答アリ前田長官ヨリ先例ヲ尊ヒテ處理
スヘキ旨ノ言明アリ

石黒顧問官ヨリ宣言書ニ「帝國憲法ノ條章ヨリ
觀テ日本國ニ限り適用ナキ云々」トアルハ憲法ニ
抵触ストノ意ト解シテ差支ナキヤトノ質問アリ前
田長官ヨリ憲法上ノ異論一掃ノ爲此ノ宣言ヲ為
セル旨ヲ答フ同顧問官ハ更ニ「宣言ノ日本文ヲ見
レハ憲法ニ抵触ストヨリ外ニ解スルコトヲ得ス憲法
上差障ナクハ斯ル宣言ヲ為スニ及ハサルニアラス
ヤ」トノ質問ヲ發シ前田長官及伊東顧問官トノ
間ニ二三ノ問答應酬アリ

石井顧問官ヨリ「in the name of their rep-
resentative peoples」ハ「人民ノ爲ニ」ノ意ニシテ他ニ意

味ナキヤトノ質問アリ前田長官之ニ答フ

石黒顧問官ヨリ亦「人民ノ名ニ於テ」トハ如何ナル
意味ナルヤヲ質シ前田長官之ニ答フ金子顧問官
之ニ對シ帝國憲法第十七條及第五十七條ニ謂
フトコロノ「天皇ノ名ニ於テ」ノ意義如何ト反問シ
石黒顧問官亦「人民ノ為」トノ意ナリヤト質シタ
ルモ以時伊東委員長ヨリ同顧問官ニ對シ質問
ニ付注意スルトコロアリ

江木顧問官ヨリ前田長官ノ答辯ニ依シハ憲法上妥
當ヲ缺ク為留保ヲ附セリトノコトナルカ妥當ナラス
トノ言葉ニハ烈シクハ破壊ヲ意味シ矛盾、牴觸等
ノ意ヲ包ムモノナリ敢テ問フ長官ノ答ハ總理大
臣ノ答ナリト解シテヨロシキヤト之ニ對シ總理大
臣考ヘラレテ差支ナシト答フ

石井顧問官ヨリ留保ノ宣言ヲ批准書ト別ニシタ
ル事由ヲ問ヒ前田長官トノ間ニ二三ノ問答アリ富
井顧問官ハ之ヲ別箇ト為セル效果ニ付江木顧
問官ハ委員會ノ審査結了ニ付各發言アリ又荒
井顧問官ヨリ本安ホト國際聯盟トノ關係ニ付松
永局長トノ間ニ問答アリ

伊東委員長ハ之ヲ以テ質問終了ニタリト認め閉
會ヲ宣ス

(午後四時閉會)

戰爭拋棄ニ關スル條約案御批准ノ件第二回審
査委員會

昭和四年六月十八日(火曜日)本院事務所
於テ開會

出席者

倉富議長

平沼副議長

審査委員長

伊東顧問官

審査委員

金子顧問官

富井顧問官

石黒顧問官

江木顧問官

田顧問官

荒井顧問官

齋藤顧問官

石井顧問官

二上書記官長

堀江書記官

武藤書記官

(午後一時三十分開會)

伊東委員長開會ヲ宣シ御諮詢案ニ對スル各員ノ意見ノ陳述ヲ求ム

江木顧問官ヨリ留保批准ノ理由ニ関スル昨日ノ石黒顧問官ノ質問ニ對シ法制局長官ハ憲法上妥當ヲ缺ク為ト答ヘタルヲ以テ妥當ヲ缺クトノ

意味ニハ矛盾抵触ヲモ含ムト解セラルルカ總理大臣ハ長官ノ此ノ答辯ヲ認ムルヤ否ト問ヒタル處之ヲ肯認セルヲ以テ此點ハ報告書ニ明記シタキ旨ヲ述フ

富井顧問官ヨリ本案ノ承認ニハ異議ナシ、問題ノ文句カ我憲法ニ抵触スルコトハ文句夫自体ニ於テ明白ナリ米國ハ宣言書タケテ先ニ送付スルハ手續上不可ナリト述フ、尚最後ノ點ニ關シ伊東委員長及二上書記官長ヨリ發言アリ

金子顧問官ヨリ本條約案ニ對シ修正ノ意見アラハ申出ラレタキ旨米國ヨリ申越セルニ拘ラス我政府ハ何等ノ手續ヲ執ラス又其後ニ於テモ手續上遺憾ノ點少カラスト陳フ

江木顧問官モ亦此ノ點ニ關シ伊東委員長トノ間ニ二三ノ問答アリ

伊東委員長ハ宣言書ト批准書トヲ別々ニ送付スルハ先例及公式例ニ抵触スト述ヘ金子顧問官モ亦該二者ハ不可離ノ關係アル旨ヲ述フ

石井顧問官ハ政府當局ハ此ノ宣言ヲ以テ留保ノ宣言ト説明シタルコトナク又留保ノ宣言ヲ批准書添

付セサレハ留保付批准トイフヘカラサルヲ以テ本案
ニハ同意ニ難キ旨ヲ述ヘ齋藤顧問官ハ今石井顧
問官ノ話ヲ聞キ本官モ亦此ノ手續ハ留保批准ト
ナラサルモノト感スル旨ヲ述ヘ江木顧問官モ亦宣
言書ハ批准書ト共ニ米國政府ニ交付スルモノトシ
考ヘ井ノル旨ヲ陳述ス

二上書記官長ヨリ婦人賣買禁止條約ノ留保
宣言ノ先例ニ付説明スルトコロアリ

伊東委員長ヨリ本案ニ付テハ已ニ政府ト由交
渉ヲ遂ケタル事情ヲ開陳シ結局憲法上妥當

ナラサルヲ以テ批准ニ際シ留保ヲ付スルコトニ諾着
セル旨ヲ述フ尚江木顧問官ヨリ批准書ト宣言書
トノ關係ニツキ質問アリ伊東委員長之ニ答フ
次テ石井顧問官ハ本案カ果シテ留保付ノ批准
ナルヤ否ニ付テハ疑アリト論シ田顧問官ハ政府自
ラ失態ヲ認メテ宣言ヲ付シタル以上之ヲ可決スル
ヲ可トスヘキ旨ヲ述フ

石黒顧問官ハ本案ニハ賛成ニ難シ但案カ案ナ
レハ遺憾ナカラ異議ヲ述ヘサルヘシト述ヘ金子顧
問官ハ本條約カ我憲法ト相容レサルハ明白ナルヲ

以テ此點ニ關シテ留保ヲ付シタル本案ノ外良案
ナシト考フル旨ヲ述ヘ本案ニ對スル米國ノ態度
等ヲ説明セリ次テ石井顧問官ト伊東審査委員
長トノ間ニ本案ヲ留保付批准ト認ムルコト及本案
ト天皇ノ對外信義トノ關係ニ付意見ノ交換アリ
金子顧問官ヨリ帝國全權大使トシテ調印シタル内
田顧問官ノ責任ニ付ケログ氏ノ例ヲ引イテ述フル
所アリ

倉富議長ヨリ本案ノ如キ重要ニシテ而モ議論ア
ル案件ノ御諮詢ヲ突然奏請セラルルトキハ或ハ極

端ノ議決トナルコトナキヲ保セス若シサルコトアラム
カ列國ニ對シ帝國ノ不利甚タ少カラサルヘキヲ以
テ先例ナキモ本案ノ提出ニ關シ内閣トノ折衝ニ
付伊東顧問官ヲ煩スコトトセル旨ヲ述ヘ變例ニ付
諒解ヲ求ムルトコトアリ

石井顧問官ハ批准書ニ宣言書ヲ添付スレハ心配ナ
キモ政府ハ之ヲ拒ムニアラサルヤヲ問ヒ伊東委員長
サルコトナキ旨ヲ答フ

其ヨリ伊東委員長ハ審査報告書作成ノ一任ヲ
求メ西議長ト協議ノ上決スヘキ旨ヲ告ケ腹案ノ

要旨ヲ述フ一同之ニ同意ス

尚江本顧問官ヨリ委員長ノ言ノ如ク本案ニ對シテ樞府ハ満足セル旨ヲ記載スルトキハ抑捺或ハ謳歌トモ解セラレ得ヘキニ付此點ハ考慮セラレムコトヲ求ムトノ陳述アリ

伊東委員長閉會ヲ宣ス

(午後三時四十五分閉會)

輸入及輸出ノ禁止及制限ノ撤廢ノ為ノ國際條約並ニ同條約ニ對スル補足協定御批准ノ件第一回審査委員會

昭和四年九月二十一日(土曜日)本院事務所

ニ於テ開會

出席者

倉富議長

平沼副議長

審査委員長